

早池峰地域移入植物駆除について

令和5年6月8日(木)に「令和5年度 第1回早池峰地域移入植物駆除」が行われました。早池峰地域の高山植物の保護を目的とし、毎年2回行われています。

駆除対象は、移入植物のセイヨウタンポポ・オオバコで、繁殖力が高く、高山植物を駆逐する可能性も高いといわれ、早池峰地域の植生への影響が懸念されています。

当署からは8名参加し、関係機関・団体・ボランティアの方々と県道25号紫波江繋線(河原の坊～小田越間の沿道)の駆除作業を行いました。

駆除対象のセイヨウタンポポは、総包片(そうほうへん)が反り返っており、反り返っていないニホンタンポポは保護対象です。

間違えないよう注意しながら登っていきましたが、タンポポ自体あまり見当たらず、オオバコで袋がいっぱいになっていきました。

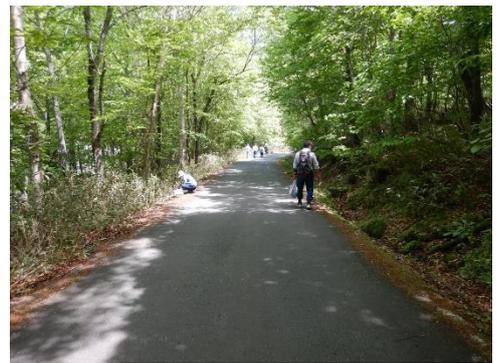
当日は晴れやかな空で心地のよい気温でしたが、オオバコの土深く張った根に集中するうちにだんだんと暑くなり、あっという間の約2時間でした。

回収された移入植物を測ると11.5kgで、昨年より4.6kg減っていて、毎年の駆除活動の成果が現れているとのこと。

駆除作業に参加して、早池峰の自然の美しさや魅力を改めて感じました。

今後もこの活動を通して早池峰周辺の森林生態系を守り、豊かな自然に繋がることを願います。

本木



河原の坊駐車場から小田越方面



オオバコ駆除の様子



回収した移入植物

同行した三人の感想

- オオバコは群生している場所もあり、毎年駆除してもこんなに生えてくるものなのかと、繁殖力の強さに驚きました。

移入植物の繁殖力の強さを目の当たりにして、早池峰地域の高山植物や在来植物を守るためには、このような活動を脈々と続けていくことが必要だと身をもって感じました。

佐々木

- 地面を這う様に生えていて、根っこが残らない様に丁寧に黙々と作業していると、自分の世界に入ってしまう、気がつく足や腰が固まってしまっていました。

駆除作業の効果が目に見えて現れると、「やって良かったな」「継続は力なり」と強く感じました。5年前に登った『早池峰山』、体力があるうちにまた登ってみたいなど、雄大な山並みを見て思いました。

小澤

- 年々回収量が減ってきているということなので、毎年行っている駆除作業の成果が現れていると感じ、うれしくなりました。今回の作業も、早池峰地域の高山植物を守るための手助けになっているのだと思うと、流した汗も気持ちの良いものとなりました。

高山植物の宝庫である早池峰山周辺の自然を守るには、今回のような地道な作業が大切であると感じました。また、そのような活動に参加できたことをうれしく思います。機会があれば、次回も参加したいと思います。早池峰の雄大な景色を見ながら、この景色を守り続けていかなくてはと気持ちを新たに帰路につきました。

似田貝



こんなにとれました



腰を据えてまだまだ粘る

岩手南部森林管理署遠野支署

総務グループ 佐々木淳子

業務グループ 小澤奈々、本木千博、似田貝瞳